

## 第2回GRC欧州視察団報告（その1）

第8回GRCA会議が、1991年10月22日から10月24日の3日間にわたって、前回の第7回GRCA会議と同じオランダ国マーストリヒト市のMECC (MAASTRICHT EXHIBITION AND CONFERENCE CENTER) で開催されました。当工業会は前回と同様GRCA会議への参加とヨーロッパにおけるGRC工業の状況視察のために、約2週間の日程でオランダ・フランス・スペインをめぐり「GRC欧州視察団」を組織いたしましたところ、10社16名の方々にご参加いただくことができました。その成果の一端を皆様にご紹介したいと思います。

このGRCA会議は、イギリスに本部を置くTHE GLASSFIBRE REINFORCED CEMENT ASSOCIATIONの主催で、2年ごとにイギリスまたはヨーロッパのいずれかの国で開催されるGRCに関する国際会議です。

今回は30カ国から約200人の参加者があ

りました。日本からは当工業会視察団とは別に2名の参加があり、総勢18名が参加しました。

何と言っても多いのはヨーロッパで約120名、次いで日本を含むアジアが多くて40名、アメリカとオーストラリヤがそれぞれ9名、その他カナダ、メキシコ、エジプト、南アフリカ、アラブ首長国等、まさに国際的な集まりでありました。

ヨーロッパでは、ドイツの28名を筆頭にフランス23名、イギリス22名、オランダ11名、イタリア9名のほかスペイン、デンマーク、スイスなど東欧も含めて16カ国から参加がありました。アジアでは日本のほかシンガポール10名、インドネシア7名、タイ、香港、台湾等から参加していました。

全体を6つのセッションに分け、1日に1セッションずつ3日間で総数36編の発表があり、日本からも4編の発表がありました。

発表はすべて英語ですが、フランス訛りの英語、イタリア訛りの英語ありで、これらからみ

ると日本人の英語は、アメリカ人の英語よりもっと英語らしく感じました。

G R C Aからの要請で、日本G R C工業会を代表して石井団長が第1日目、第1セッションの座長を勤め、また第2日目、第3セッションではパネルディスカッションのパネリストを勤めました。このG R C A会議の発表内容については、要点をまとめて次号でご紹介する予定です。

このG R C A会議の3日間の中日に恒例の夕食会が開かれました。この時には、結構奥さん同伴で出席する人もあり、華やかで楽しい集まりでした。地元の音楽隊による演奏と合唱があり、私共も一緒に楽しみました。もののはずみで、日本人全員で合唱することになり、坂本九の「上を向いて歩こう」を歌い、大喝采をあげ思い出深い夜となりました。

マーストリヒトは、オランダの南端にあり、東はドイツに、西はベルギーに国境を接するリンブルグ州の州都であり、オランダ最古の街で街の中央を流れるマース川の渡し場として2千年前に形成されたといわれています。今もこのマース川を朝な夕な、各国の国旗をつけた船が行き交っているのを見掛けました。

G R C A会議が終わった翌日から約1週間にわたってG R C工場の見学とG R Cの施工現場の視察を行いました。

今回は、Cem-FIL INTERNATIONAL社のご配慮で、G R C工場としてはアムステルダムからハーグ方面へ約30kmのところにあるRINGVAAR社とマドリッド郊外にあるCARACOLA社を訪問し、実際にG R Cの製造現場を見学することが出来ました。

また、G R Cの施工現場視察では、レンゾー・ピアノ設計のパリ市内のアパート外装をはじめベルサイユ宮殿の近くのホテルなど、さらに、マドリッドでは市内及び郊外の物件をそれぞれCem-FIL INTERNATIONAL社の人の案内で見まわりました。

これらの視察結果については次号に紹介させ

ていただく予定ですが、この視察を通じて私共は各国の文化に直に接することが出来ました。

R I N G V A A R社は運河沿いにあり、原材料の運搬には船を使っていました。丁度、貨車の引込線のように、縦横にはりめぐらされた運河から工場内に運河が引込まれていました。この水面は北海よりも4m低く、従って、海外からの原材料は何段かの堰を通り抜け、段々と水位を下げてこの運河に入って来るということでした。

運河の水位は絶えず調節されており、年間10cmを超えて変化することはないそうです。そして人家や畑は、この運河よりさらに低いところにありました。

パリのG R C施工物件の視察道中では、はるか彼方にかすむデファンス地区の新凱旋門を訪れました。近づけば近づくほどに大きくおおいかぶさって来る建物に圧倒されました。この空間部に、あの壮麗なノートルダム寺院がすっぽりと入ってしまうそうです。

風力を弱めるためのキャンバスと風除けの特厚ガラスの林。一方で古い街並みを守りながら一方で何とも思い切りのよい建築物でしょうか。

スペインのマドリッドには10月28日に入りました。中東和平会議が開かれるため、街中が物々しい警護の中にあり、装甲車や機関銃を持った兵士がそこそこで警備についていましたが、平和に馴れ親しんでいるわれわれには、余り気持ちのよい光景ではありませんでした。

10月30日、予定通り中東和平会議が開かれました。この日、私共はG R C欧州視察の最終予定の日で、早朝にマドリッド市内のG R C施工物件を見学した後、郊外のG R C工場を視察し日暮れにマドリッドに戻って来ましたが、ホテルの近辺にも警備についている兵士が大勢居ました。

思えば、イスラエルとアラブが同じテーブルにつくという歴史的な出来事のすぐそばに居た訳ですが、その後の成行きを見聞しながら世

界平和の厳しさを再認識させられました。

何よりも、2週間の旅で世界各国の多くの人達と、GRCという土俵で知り合うことが出来ました。また、この視察団に参加した私共は、皆10年来の知己のごとく親しくなり、連帯感さえ感じられました。誠に思い出深い第2回GRC視察旅行とすることが出来ました。

これも、日本GRC工業会をはじめ関係者一同のご尽力によるものであり、心からお礼申しあげる次第です。

最後になりましたが、今回の視察旅行を企画して同行下さった(株)日本旅行様及び北添様に厚くお礼申し上げます。

それでは次回の報告を楽しみにして下さい。